



テクノロジーが従業員エクスペリエンスを破壊する

従業員のエンゲージメントと生産性を維持するために提供されたソリューションが、従業員にフラストレーションを与え、生産性を低下させていることが、CitrixとOnePollの共同調査で明らかに

フロリダ州フォートローダーデール 2021年6月24日 # Citrixは、OnePoll社と共同で、CIOやCTOを含む全米の1,000人のIT部門意思決定者および2,000人の在宅勤務中の従業員を対象にした調査「[Work Your Way](#)」を実施し（実施期間：2021年4月14日-22日）、その結果、いくつかの注目すべき新たな傾向が顕著になっていることを発表しました。

多くの企業が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために在宅勤務を開始して、テレワークに必要なテクノロジーを導入しました。テレワーク移行の当初に実施した調査では、テレワークに必要なテクノロジー導入により生産性と従業員エンゲージメントが向上したことが分かりましたが、[最新の調査「Work Your Way」](#)では、多すぎる業務アプリケーションが、業務を遂行する上での妨げになっていることが明らかになりました。

Citrixのビジネス戦略担当エグゼクティブ・バイスプレジデント兼チーフ・マーケティング・オフィサーであるティム・ミナハン（Tim Minahan）は、「従業員はこれまで同様、もしくはそれ以上の時間働いているにもかかわらず、テクノロジーが邪魔をして、達成できることが少なくなっています。企業が新しいハイブリッドなワークモデルを構築する際には、テクノロジーの役割と組織全体への適用方法を再考し、従業員が不満を抱くことなく、成功への力を得られるようにする必要があります」と述べています。

従業員が仕事をするために必要なツールの数は大幅に増加し、職場での複雑さも増えています。

- 64%の従業員が、新型コロナウイルス感染症の発生以前よりも多くのコミュニケーションツールやコラボレーションツールを利用していると回答
- 71%が「仕事がより複雑になった」と回答

「従業員は不満を抱えています。従業員のモチベーションを維持し、最高のパフォーマンスを発揮してもらうために、企業は仕事上の摩擦や雑音を排除し、新しいやり方を学ぶことを強いるのではなく、従業員のワークスタイルに適応したテクノロジーを提供する必要があります」とミナハンは述べています。

在宅勤務によりワークスタイルは根本的に変わりました。「従業員は以前のようなワークスタイルには戻らない」とミナハンは述べています。今回の調査では、回答者の約90%が、新型コロナウイルス感染症収束後も自宅やオフィスで仕事を続けられる柔軟性を求めていると答えました。

「物理的な場所に関わらず、従業員は一貫して安全で信頼性の高いツールを利用して、各自に最適な方法で仕事をできるようにする必要があります」とミナハンは述べています。

賢明な企業はこのことを理解しており、デジタル・ワークスペースはそれを実現する手段であると考えています。デジタル・ワークスペースがあれば、企業は以下のことが可能になります。

- Unify Work – 家でも、飛行機でも、オフィスでも、あらゆる業務チャネル、デバイス、場所で、生産性を高めるために必要なすべてのリソースに確実にアクセスできます。
- 安全な仕事 – コンテキストアクセスとアプリのセキュリティにより、どこで仕事をしていてもアプリケーションと情報の安全性を確保できます。
- 仕事の簡素化 – 機械学習、仮想アシスタント、簡素化されたワークフローなどのインテリジェンス機能により、仕事の体験をパーソナライズ、ガイド、自動化することで、従業員はノイズから解放され、最高のパフォーマンスを発揮することができます。

本調査に参加した企業の約90%が、ハイブリッド／分散型勤務を促進するためにデジタル・ワークスペース・ソフトウェア・プラットフォームを使用していると回答し、以下のような結果を出しています。

- 72%の従業員が生産性が向上したと回答
- 77%の従業員がコラボレーションが促進したと回答

ミナハンは、「従業員と使い勝手の悪いテクノロジーとを切り離すことで、企業は、従業員が仕事を遂行し、目標達成のために必要なアプリを効率的に利用できる環境を整えられます」と述べています。

働き方の未来と、それを実現するためにデジタル・ワークスペースが果たす役割については、[こちら](#)をご覧ください。

-
-